

- チップ内部のタイミングシミュレーションを以下の手順で行います。
- 1. Software Simulationのメニューから電源(Voltage Source)、接地(Ground)および信号モニターのためのプローブ(Probe)の設定を行います。
- 2. 信号波形を電源を付加した端子に設定します。
- 3. Transient Analysis により、動作波形のタイミングを生成、表示します。
- 4. タイミングの確認、調整を行います。
- ・ 以上1~4を繰り返します。





R Project Info

Typ.

🟦 Rotate Left 🛛 🔔 Rotate Right 🗌 📶 Flip Horizontal 🛛 🦪 Flip Vertical 👘 Align Horizontal 🔚 Align Vertical

1.71

Specs Information

Operating conditions Min

VDD (V):

New Open Save Print Undo Redo

Set Wire Erase Wire Set Label Erase Label Rules Checker Debug Project Settings

Max.

Properties

0

Components List

▼ I/O PADs

Co









 右上のAdd Voltage Source のアイコンをクリック後、入力波 形を適用する端子をクリック。赤 いSマークが付くことを確認しま す。 入力波形の設定は、Pマークを ダブルクリックして現れる Voltage Source SetupのGUIに より行います。

2. 右上のAdd Probeをクリック 後、波形をモニターしたい信号を クリック。黄緑色のPマークが付 くことを確認します。





Voltage Source SetupのWindow



信号波形は、低電圧、台形、サイン波、ロジック、カスタムから選択します。



電源波形の設定



カスタム波形の編集画面です。ノードを追加しながら電圧波形を作ります。



Transient Simulationの条件設定



右上のTransient Analysisをクリック、中央のWindowで終了時間、タイムステップ、電源電圧等を設定し、 OKをクリック



動作波形確認

タイムステップの取り方によっては、波形が現れるまでに時間が掛かる場合があります。



初期条件によってはSimulationが収束しないことがあります。その場合には、Use Initial Conditions のチェックボックスにチェックマークを入れて下さい。







o ×